

の合成と Diels-Alder 反応. 日本薬学会北陸支部第62回例会, 1984, 6, 富山.

8) 竹内義雄: 2-Oxabicyclo[2. 2. 2]octene 環を有する抗生物質 Sarubicin A(U-58, 431) および関連化合物の合成. 日本薬学会北陸支部第63回例会(研究奨励講演会), 1984, 7, 金沢.

9) 竹内義雄, 堀 耕造, 村山敦浩, 朝比奈正博, 小泉 徹: 多重官能性炭素構造を有する新規化合物の化学. 2. ニトロ基を含む多重官能性化合物の合成. 日本薬学会北陸支部第64回例会, 1984, 11, 金沢.

10) 桑山修一, 辻 秀樹, 袴田市郎, 荒井謙次, 竹内義雄, 小泉 徹: α, β -不飽和スルホキシド類の Diels-Alder 反応——ジアステレオ選択性に及ぼす置換基の効果——. 第11回反応と合成の進歩シンポジウム, 1984, 11, 長崎.

11) Takeuchi Y., Hori K. and Koizumi T.: Synthesis of Some Fluorine Compounds Containing Multifunctional Carbon Atom, The 1984 International Chemical Congress of Pacific Basin Societies, 1984, 12, Honolulu.

◆ その他

1) 小泉 徹: アミノ酸を不斉源とする光学活性リン化合物の合成. 化学と生物 22: 193-195, 1984.

物 理 薬 剤 学

教 授 榎 本 三 郎
助 教 授 井 上 正 美
助 手 柏 木 寛
助 手 上 山 勉

助 教 授 北 川 泰 司
助 手 森 佳 洋
助 手 篠 田 裕 之

◆ 原 著

1) 上山 勉, 榎本三郎, 井上正美: パラジウム-リン酸クロム触媒によるシクロヘキシルアセテートの合成. 薬誌, 104: 713-717, 1984.

2) Itoi Y., Inoue M., Enomoto S. and Watanabe Y.: Epoxidation of Alkenes with Hydrogen Peroxide in the Presence of Molybdenum oxide-Tributyltin chloride on Charcoal Catalysts. Chem. Pharm. Bull. 32: 418-423, 1984.

3) Inoue M., Ohnishi S., Tanaka R. and Enomoto S.: Polymerization of Glycine Using Anilinium Tripolyphosphate. Chem. Pharm. Bull. 32: 5048-5050, 1984.

◆ 総 説

1) 上山 勉, 榎本三郎, 触媒を用いた有機化合物の合成—ヒドロアルキレーション: 触媒 26: 22-29, 1984.

◆ 学会報告

1) 上山 勉, 榎本三郎, 井上正美: 溶融塩を用いるフェノールのヒドロアルキレーション. 日本薬学会第104年会, 1984, 3, 仙台.

2) 糸井 泰, 井上正美, 榎本三郎: 不均一エポキシ化触媒における担体の処理効果. 日本薬学会第104年会, 1984, 3, 仙台.

3) 柏木 寛, 榎本三郎: DNA と発癌剤の電荷移動相互作用の ESR による研究——DNA の有機物による前処理の影響——. 日本薬学会第104年会, 1984, 3, 仙台.

4) 糸井 泰, 井上正美, 榎本三郎: クロム(III)化合物を触媒とするオレフィン類の過酸化水素による酸化. 日本薬学会北陸支部第62回例会, 1984, 6, 富山.

5) 井上正美, 山口 悟, 榎本三郎: 金属塩の存在下における芳香族炭化水素の過酸化水素による酸化. 昭和59年度触媒研究発表会, 1984, 10, 静岡.

6) 糸井 泰, 井上正美, 榎本三郎: 不均一 Cr(III)化合物触媒を用いたオレフィンの過酸化水素による酸化. 昭和59年度触媒研究発表会, 1984, 10, 静岡.

◆ 原 著

1) 森 佳洋, 北川泰司: 水素結合クラスタービームの検出とイオン反応との関連, 質量分析, 32(5): 439R-442R, 1984.

◆ 学会報告

1) 森 佳洋, 北川泰司: 固体アミノ酸の熱的過程と固体内水素結合, 日本薬学会第104年会, 1984, 4, 仙台.

2) 篠田裕之, 森 佳洋, 北川泰司: ヒスタミン類の MINDO/3 計算, 日本薬学会第104年会, 1984, 4, 仙台.

3) 森 佳洋, 北川泰司: 酢酸二量体および多量体の質量スペクトル, 日本化学会49春年会, 1984, 4, 東京.

4) 森 佳洋, 嶋 慎一, 北川泰司: 紫外レーザー光による有機分子の多光子イオン化, 日本化学会49春年会, 1984, 4, 東京.

5) 森 佳洋, 北川泰司: 質量スペクトルによる水素結合クラスターの検出と定量, 分子構造総合討論会, 1984, 10, 名古屋.

◆ その他

1) 篠田裕之, 小川 豊, 久島史治: *Clinical Pharmacokinetics* とコンピューターの利用(2) *TDM* 3(1): 34—37, 1984.

2) 篠田裕之, 小川 豊, 久島史治: *Clinical Pharmacokinetics* とコンピューターの利用(3) *TDM* 3(2): 32—35, 1984.

3) 篠田裕之, 小川 豊, 久島史治: *Clinical Pharmacokinetics* とコンピューターの利用(4) *TDM* 3(4): 43—46, 1984.

教授 竹 口 紀 晃
講師 森 井 孫 俊
助手 柏 倉 正 司
教務員 浅 野 真 司

◆ 著 書

1) 竹口紀晃: 胃粘膜・胃腺における塩酸分泌量の測定. 「膜学実験法」中垣正幸編, 171—176, 喜多見書房, 1984.

◆ 原 著

1) Morii, M., Ishimura, N., and Takeguchi, N.: Quasi-elastic light scattering studies of conformational states of the H, K-ATPase. Inter-vesicular aggregation of gastric vesicles by disulfide cross-linking, *Biochemistry* 23: 6816—6821, 1984.

2) Abu-Zaid, S. S., Morii, M. and Takeguchi, N.: Effects of freezing, freeze-drying and cold storage on the size and membrane permeability of multilamellar liposomes. *Membrane* 9: 43—48, 1984.

3) Kashiwagura, T., Deutsch, C. J., Taylor, J., Erecińska, M. and Wilson, D. F.: Dependence of gluconeogenesis, urea synthesis, and energy metabolism of hepatocytes on intracellular pH. *J. Biol. Chem.* 259: 237—243, 1984.

4) Kashiwagura, T., Wilson, D. F. and

Erecińska, M. Oxygen dependence of cellular metabolism: The effect of O₂ tension on gluconeogenesis and urea synthesis in isolated rat hepatocytes. *J. Cellular Physiol.* 120: 13—18, 1984.

◆ 学会報告

1) 石村典元, 森井孫俊, 竹口紀晃: 準弾性光散乱法による (H⁺+K⁺)—ATPase のコンフォメーション. 日本薬学会第104年会, 1984, 3, 仙台.

2) 斉藤拓哉, 森井孫俊, 竹口紀晃: 胃ベシクル膜の塩透過性調節機構. 日本薬学会第104年会, 1984, 3, 仙台.

3) 森井孫俊, サミロ・アブザイド, 竹口紀晃: リポゾームのアミノ酸透過性と粒子径. 第6回日本膜学会, 1984, 5, 大阪.

4) 山崎芳伸, 竹口紀晃: 胃 H, K—ATPase における (H⁺輸送量/ATP加水分解量) 化学量論比. 日本薬学会北陸支部第62例会, 1984, 6, 富山.

5) Takeguchi, N., Saitoh, T., Ishimura, N. and Morii, M.: Size and salt permeability of gastric ATPase vesicles. Europe-Japan congress on membranes and membrane processes, 1984, 6, Stresa, Italy.

6) Kashiwagura, T., Wilson, D. F. and Erecińska, M.: Oxygen dependence of cellular metabolism: the effect of oxygen tension on gluconeogenesis and urea synthesis in isolated rat hepatocytes. American society of biological chemists (75th annual meeting), 1984, 6, St. Louis.

7) 山崎芳伸, 竹口紀晃: 胃 H, K—ATPase の H⁺/ATP 化学量論比. 第22回日本生物物理学会, 1984, 10, 横浜.

8) 石村典元, 森井孫俊, 竹口紀晃: 準弾性光散乱法による H, K—ATPase のコンフォメーション. 第22回日本生物物理学会, 1984, 10, 横浜.

9) 竹口紀晃, 斉藤拓哉, 山崎芳伸; H, K—ATPase インヒビターの胃ベシクル膜に対する作用, 第7回生体膜と薬物の相互作用シンポジウム, 1984, 11, 東京.

10) 柏倉 正, Deutsch, C. J., Taylor, J., Erecińska, M., Wilson, D. F.: ラット単離肝細胞の細胞内 pH とエネルギー代謝: 糖新生および尿素合成を中心として. 第7回生体膜と薬物の相互作用シンポジウム, 1984, 11, 東京.

11) 石村典元, 森井孫俊, 竹口紀晃: H, K—ATPase のコンフォメーション. 第10回生体エネルギー

ギー討論会, 1984, 12, 大阪.

12) 柏倉 正, Deutsch, C. J., Taylor, J., Erecińska, M., Wilson, D. F.: 遊離肝細胞の尿素合成および糖新生の細胞内 pH_i 依存性とエネルギー代謝. 第10回生体エネルギー討論会, 1984, 12, 大阪.

◆ その他

1) 竹口紀晃: 陽のあたる夢. ファルマシア (パネル) 20: 30, 1984.

2) 竹口紀晃: 生体膜のイオン輸送機能と疾患—最近の研究成果から—(座談会). メディカルトリビューン, 11月22日号, 1984.

薬学部附属薬用植物園

助 授 吉 崎 正 雄
助 手 鈴 木 正 一
文部技官 藤 野 廣 春

◆ 原 著

1) Kimura M., Kimura I., Takahashi K., Muroi M., Yoshizaki M., Kanaoka M., and Kitagawa I.: Blocking Effects of Blended Paeoniflorin or Its Related Compounds with Glycyrrhizin on Neuromuscular Junctions in Frog and Mouse; Japan. J. Pharmacol. **36**: 275—282, 1984.

2) Kanaoka M., Yano S., Kato H., Nakaniishi K. and Yoshizaki M.: Studies on the Enzyme Immunoassay of Bio-Active Constituents Contained in Oriental Medicinal Drugs III. Enzyme Immunoassay of Paeoniflorin, a Constituent of Chinese Paeony Root; Chem. Pharm. Bull. **32**: 1461—1466, 1984.

3) Arisawa M., Hamabe M., Sawai M., Hayashi T., Kiuzu H., Tomimori T., Yoshizaki M. and Morita N.: Constituents of *Liquidamber formosana* (Hamamelidaceae); Shoyakugaku Zasshi **38**: 216—220, 1984.

4) 御影雅幸, 矢川久子, 吉崎正雄, 木村康一, 難波恒雄: 側柏葉の生薬学的研究 (第1報) *Thuja orientalis* L. およびその類似植物に由来する商品について. 生薬学雑誌, **38**: 327—333, 1984.

◆ 学会報告

1) 木村正康, 鈴木 潤, 山田 禎, 吉崎正雄, 菊地 徹, 門田重利, 松田暁子: 辛夷 (タムシバ) 成分群の抗炎症作用. 日本薬学会第104年会, 1984,

3, 仙台.

2) 有澤宗久, 吉崎正雄, 森田直賢: *Trichosanthes* 属の研究 第1報 市販括楼仁の成分. 日本薬学会北陸支部第62回例会, 1984, 6, 富山.

3) 鈴木正一, 藤野廣春, 吉崎正雄: セリ科薬用植物の放射線感受性. 日本育種学会第66回講演会, 1984, 10, 京都.

4) 貴良礼子, 波多野 力, 奥田拓男, 吉崎正雄: フウのタンニン研究 (第1報). 日本生薬学会第31回年会, 1984, 10, 東京.

5) 吉崎正雄, 藤野廣春, 益山美邦子, 有澤宗久, 森田直賢: *Trichosanthes* 属の研究 (第2報) 茎葉の成分 (その1). 日本生薬学会第31回年会, 1984, 10, 東京.

◆ その他

1) 吉崎正雄編: 富山医科薬科大学薬学部附属薬用植物園植物目録追録, 薬用植物園, 1984. 2.

2) 金岡又雄, 矢野三郎, 加藤弘巳, 中西京子, 吉崎正雄: 和漢薬の生理活性成分の酵素免疫測定法の研究, 芍薬成分 Paeoniflorin の酵素免疫測定法について. 和漢医薬学会誌 (第17回和漢薬シンポジウム記録) **1**: 42—43, 1984.

3) 木村郁子, 木村正康, 吉崎正雄: 糖尿病性ニューロ・ミオパチーに対する芍薬甘草湯類聚方のマウス *in situ* におけるブレンド効果. 和漢医薬学会誌 (第17回和漢薬シンポジウム記録) **1**: 60—61, 1984.